令和３年度第１回岡崎市森づくり協議会　会議録

開催日時　令和３年 10 月 25 日（月）16：00～17：30
開催場所　岡崎市役所西庁舎 502 号室
出席者　　委員　蔵治　光一郎、山崎　真理子、眞木　宏哉、小原　淳、唐澤　萌、
　　長坂　英樹、河野　宏枝
　　オブザーバー　木島　伸悟（林野庁 中部森林管理局 愛知県森林管理事務所長）、
　　伊藤　義宏（愛知県 西三河農林水産事務所 林務課長）
　　事務局　植山　論（経済振興部長）、畔柳　智岐（経済振興部技術担当部長）
　　畔柳　久司（森林課長）、水越　鉄也（森林課副課長）、
　　板坂　英幸（森林課主任主査）、今泉　英敏（森林課主任主査）
　　傍聴者　なし

議題
⑴　会長の互選及び副会長の指名
⑵　森林整備ビジョンの所掌事務・内容について
⑶　森林整備ビジョンの進捗状況について
その他
⑴　木材利用についての報告（岡崎市公共建築物木造化検討委員会）
⑵　森林整備ビジョンの個別施策における、脱炭素社会の実現・カーボンニュートラルの推進に関する各取組の効果的な進め方について
別紙資料
資料１　岡崎市附属機関設置条例
資料２　岡崎市森づくり協議会要綱
資料３　岡崎市公共建築物等木造化検討委員会設置要綱
資料４　岡崎市豊富保育園説明資料

議事要旨
会長の互選及び副会長の指名
１　説明
［事務局］
会長は、岡崎市森づくり協議会要綱第２条第２項の規定に基づき、互選することとなっている。また、副会長は、同じく要綱第２条第２項の規定に基づき、会長が指名することになっている。
⑴　会長の互選
［委員］
事務局からの案を求める。
［事務局］
森林整備ビジョンの改訂にご尽力をいただき、また、森林整備等に関して幅広い知識

と経験をお持ちの蔵治光一郎委員を推薦する。
［委員］
（全員拍手）
［事務局］
拍手多数により、蔵治委員を選任する。
［蔵治委員］
引き受けます。
⑵　副会長の指名
［会長］
副会長に、森林整備ビジョン改訂の協議において特に木材利用分野で専門的なご意見をいただき、森林整備ビジョンの方向性を共有されている、山崎真理子委員を指名する。

森林整備ビジョンの所掌事務・内容について
１　説明
［事務局］
岡崎市森づくり協議会は、岡崎市附属機関設置条例に基づき設置され、その所掌事務は、岡崎市森林整備ビジョンの内容及び進捗状況に関する審議を行うこととしている。これを行うことが最重要課題である。
森林整備ビジョンは、本市の貴重な財産である森林の恩恵を、市民一人ひとりが十分に認識し後世に受け継いでいくため、平成 23 年３月に策定し 100 年後の望ましい森林の姿を目指し、森林の整備や森林環境教育などに積極的に取り組んでいる。
令和２年度に 10 年の短期目標を迎え、これまでの取組の結果や社会・経済・環境の変化、社会情勢の要求などを踏まえ、上位計画である第７次岡崎市総合計画や関連する計画との整合を図り、10 年間の取組の評価と本市の森づくりの方向性を確認するために、岡崎市森づくり協議会で議論を重ね、改訂した。
岡崎らしい森林を目指して、基礎となる「森林を管理する基盤に関わる施策」。土台となる「森林施業・森林経営計画に関わる施策」。そして木材等生産機能・公益的機能に関わる施策」を明確にし、森林所有者や森林組合、行政、市民や企業等が協働して取り組んでいくこととしている。
２　意見・質問
［委員］
（意見・質問なし）

森林整備ビジョンの進捗状況について
１　説明
［事務局］
改訂した個別施策に今年度から取り組んでおり、全体として進捗状況を取りまとめたものは、次年度の協議会で最終的に報告する予定である。2021 年度の目標が示されている個別施策について、現時点までの暫定的個別での報告となる。

⑴　個別施策１　森林情報の集積・一元化と活用について、現在、令和４年度の予算措置で対応するための準備を進めている。本市の GIS データや森林資源解析業務で生成した森林情報を利用した内容のものを検討している。

⑵　個別施策７　木材製品の利用促進･利用先の拡大　木材利用の目標設定について、公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律の一部改正の運用に沿いつつ、研究会等の実施、地域商社の設立といった項目と関連し、目標設定に向けて検討している。研究会等の実施回数は、年間６回予定として令和４年度の予算措置で対応を調整している。また、地域商社の設立は、年度内の設立に向けて対応している。

⑶　個別施策 13　森林被害対策の推進について、目標とするニホンジカの捕獲頭数は９月までの概算値で 216 頭となっている。直近３年の年間捕獲頭数は、平成 30 年度 451 頭、平成 31 年 639 頭、令和２年 730 頭で、1,000 頭の目標は高く設定している。捕獲頭数は特に 10 月以降が目立って多く、今年度は昨年度と比較しイノシシの捕獲が増えていることもニホンジカの捕獲頭数が減少している理由となっている。

⑷　個別施策 16　森林づくりに関する情報の整備と発信について、森林課のホームページへの掲載件数は、10 月 21 日現在で掲載件数 60 件、内新規作成 20 件。閲覧件数は 15,645 件（76.7/日）となっており、これは令和２年度と比較して 1.4 倍となっている。

２　意見・質問

［委員］

進捗が進んでいない個別施策はあるか。

［事務局］

2021 年の目標に対して、進捗状況が芳しくない個別施策は現時点ではない。今後取り組んでいく中で、必要に応じて委員の方々に意見を伺うなど関係者で協議を行い、取り組んでいく。

［委員］

地域商社はどんなイメージで設立させるのか。

［事務局］

里山（川上）と市街地（川下）との交流により、木材だけでなく、人・お金・資源の循環を図る地域内循環の推進により持続可能性を高めることをコンセプトとしている。事業内容として、木材流通業務や森林サービス産業、企業との窓口を検討している。

［委員］

個別施策７　木材製品の利用促進・利用先の拡大のうち、取組④民間事業体等における地元材の利用の促進・支援、Ａ地元材を利用した住宅づくり促進のため、補助制度の活用の促進や民間事業体等が進めるプロジェクトの支援を実施する。について、具体的な説明を求める。

［事務局］

補助制度の活用の促進・支援について、より利便性・実用性の高い制度とするために、利用実績のあるものにヒアリング等を行い、補助対象事業・補助要件の見直しを

検討している。また、広報活動として、これまで行ってきた建築業者への定期的な案内に加え、市産材利用啓発 PR 用のぼりを助成金を利用して作成し、りぶら・額田センターで行った木材利用啓発企画展示や、市産材補助制度の利用建築現場に掲示するなどを新規で行っている。

その他
木材利用についての報告（岡崎市公共建築物木造化検討委員会）
１　説明
［山崎副会長］
　岡崎市公共建築物木造化検討委員会に外部委員として出席し、「脱炭素社会の実現に向けて森ー街連携と都市の木質化」をテーマに講演した。その概要を説明
［事務局］
　令和３年度実績として、豊富保育園を紹介
２　意見・質問
［委員］
　木造 10 階建ては建築が可能なのか。
［山崎副会長］
　建築は可能。岡崎市が木造化建築物のシンボルとして求めるかどうか。

森林整備ビジョンの個別施策における、脱炭素社会の実現・カーボンニュートラルの推進に関する各取組の効果的な進め方について
１　説明
［事務局］
　森林整備ビジョンは、基本方針を踏まえて施策を展開することとしており、施策体系で「森林の持続可能な経営」、「木材の利用」、「炭素貯蔵に貢献する」ことを示している。ビジョンの個別施策でも、森林整備においては、放置人工林の間伐の推進を緊急の施策とする。さらに、木材の利用においても、利用促進・利用先の拡大が求められている。
　世の中が脱炭素社会の実現・カーボンニュートラルの推進（国・県の動向、市の動き）に向かっている中で、どのように執り行っていくことが効果的であるのかを諮りたい。
　学識経験者として、蔵治会長に川上側を対象とする間伐の推進などの個別施策に関して、川中・川上側を対象とする木材利用などの個別施策に関して、山崎副会長から意見をいただきたい。
［会長］
　東京大学では、現総長の任期中の行動指針として 10 月に公表した「UTokyo Compass」が掲げた目標「人類社会が直面する地球規模の課題に関し、東京大学が有するあらゆる分野の英知を結集してその解決に取り組む」と、そのための計画「地球システムの

責任ある管理」、「事業体としての東京大学の脱炭素の達成」に基づいた取組の一つとして、「Race to Zero」へ参加することとしている。

東京大学全体の二酸化炭素実質排出量を 2030 年度に 2006 年度比で半減することを目指し、実現に必要な制度・政策手段を明確にする予定。東京大学の持つ演習林は、東京大学全体の二酸化炭素排出量の７割を吸収している。間伐を実施することで二酸化炭素吸収量が増加することがわかっており、Ｊクレジットにも小規模ながら参加している。

［副会長］

伐採した後に木材を製品とし都市部で利用することで、二酸化炭素貯蔵の定量評価を行う。森林の二酸化炭素吸収量を見える化することで、市民への啓蒙を行っていく。木材の重量の半分は炭素であり、それを木炭で表すことや光合成量を測るなどを行い、教育に活かしていく。

［委員］

土砂災害はカーボンニュートラルと無関係ではない。森林を支える土壌を保全することをカーボンニュートラルの観点から、間伐と土砂崩れを一体で考える必要がある。

［委員］

森林総合研究所が木の効用などについて多くのエビデンスを持っている。これらを使い市民に講座等を行うなど教育に力を入れていく必要がある。

［委員］

脱炭素社会の実現に向けて、木材需要が高まったときに乱暴な動きになっていくことに不安がある。慎重に長期的に理解していく必要がある。

［委員］

木造建築物は、地震・火災に弱いイメージが強い。木材利用を促進するために、これらを払拭していくことも必要。

［委員］

岡崎市の森がどれくらい CO2 を吸収しているのか、森林経営計画が樹立された森林についてはＪクレジットに参加しており、第三者機関が現地調査をして評価している。しかし市の森林のうち森林経営計画が樹立された森林の面積はわずかであり、樹立されていない森林の吸収量は現時点ではわからない。今後、森林ビジョンの進行に伴って市の森林全体の吸収量がわかるようになるとよい。

【連絡事項】

［事務局］

次回の岡崎市森づくり協議会は、令和４年度開催を予定している。

個別施策の取組に関して、引き続き協力を依頼する。